

本研修会では、2007年度より経済産業省・文部科学省共催により日本国内で実施された留学生に対する就職支援事業「アジア人財資金構想事業(<http://www.ajinzai-sc.or.jp>)」の経験を踏まえ、大学におけるビジネス日本語教育の在り方について考えました。研修会全体の構成として、前半は基本的な考え方について講演形式で話を進め、後半は研修参加者にケースを使った学習活動を体験してもらいました。以下、実際の研修会の内容を簡潔にまとめて記述します。

## 1. ビジネス日本語教育とは？

### 1. 1 社会背景と求められる人材育成

はじめに、日本国内でビジネス日本語教育が注目され始めた要因として、少子高齢化と経済のグローバル化があることを説明しました。(<http://www.ajinzai-sc.jp/seisaku.html>)。特に、経済のグローバル化に対応する「高度グローバル人材」の育成が急務とされており、外国人留学生に対するビジネス日本語教育も、いわゆる「語学」の域を超えて「人材育成」の一環としてとらえられる必要があることを強調しました。ここでは、研修参加者とともに、そもそも「高度グローバル人材」とはどのような人材のことを指すのか確認した後に、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」および文部科学省が提唱する「学士力」の能力要素について紹介しました。

### 1. 2 アジア人財資金構想事業概要

上記のような社会背景の説明に続いて、アジア人財資金構想事業の具体的な取り組みについて、以下の項目を中心に説明しました。

事業概要(<http://www.ajinzai-sc.jp/asia.html>)

事業実施者(<http://www.ajinzai-sc.jp/consortium.html>)

ビジネス日本語教育のコンセプト(<http://www.aots.or.jp/asia/curriculum/index.html>)

### 1. 3 大学でビジネス日本語教育を導入するにあたって

このセッションでは、まず、現在のビジネス日本語教育の実践例について、「日本語中心型」「スキル中心型」「活動中心型」「ケース中心型」の四つに類型化できることを説明しました。その上で、スキル中心型と活動中心型のカリキュラムや教材、具体的な学習活動の例について、資料をもとに説明をしました。また、大学でビジネス日本語教育を実施する上での工夫のポイントをいくつか紹介しました。

## 2. ケースメソッドについて

このセッションでは、ケースメソッドについてその概要をごく簡単に説明しました。説明した内容は以下の各項目です。

- ・ ケースメソッドのルーツ
- ・ 教師の役割と学習素材について
- ・ 育成する能力について
- ・ 学習活動の流れについて
- ・ 事前課題のタスク例について

特に、事前課題でケースを十分に読みこんでくることが、必ずケースに対する自分なりの問題意識と解決策を文字化して授業に臨むことの重要性を説明しました。

## 3. ケースを使った学習体験

具体的なケースを用いて学習体験を行いました。使用したケースは、政策研究大学院大学の近藤彩先生にお借りしたものです。当該のケースに関連する論考はこちらを参考にしてください(<http://www3.grips.ac.jp/~jlc/files/ronshu2010/Kondoh%20Kim.pdf>)。

## 4. 日本で働く外国人就労者の声

最後に、アジア人財資金構想事業の修了留学生に対する追跡調査(アンケート調査・インタビュー調査)の結果を抜粋して、日本で働く元留学生が直面する問題について簡単に紹介をしました。過年度の調査結果については、下記 URL からダウンロードできます。また、今年度実施している調査結果も 3 月末ごろをめどに web 上にアップする予定です。

[http://www.aots.or.jp/asia/r\\_info/index.html](http://www.aots.or.jp/asia/r_info/index.html)

なお、ここで紹介しているリンクは 2012 年 2 月 10 日現在のものです。その後のリンク切れにつきましては責任を負いかねますのでご理解ください。

以上